

理念	子どもの人格を尊重し、子ども一人ひとりに応じた専門療育を行い「将来にわたって、より健やかに生きていく力」を高め「豊かな人間性」を育てる。	
方針	地域における中核的専門機関として、子ども一人ひとりに応じた適切な早期療育及び家族支援を継続的かつ総合的に行えるよう、より一層充実した体制を整え、福祉の向上に貢献する。	
営業時間	10:00～16:00(午前グループ10:00～12:00 午後グループ13:30～15:30)	送迎の有無 なし

①健康・生活

- ・個別、集団等、全体の状況や流れが理解しやすいよう室内のフロアを分け環境面からアプローチし自発的な行動を促す。
- ・スケジュールを示し今日の流れを理解し安心して過ごせるよう支援する。
- ・衣類の着脱、排泄、食事、身なりを整える等、生活を営む上で必要となる基本的な技能を視覚情報(実演、イラスト、写真、手順書)等利用しながらの獲得できるよう支援する。



②運動・感覚

- ・子どもが使用している眼鏡や補聴器、食事においてはスプーンやフォーク、介助箸、机上活動においては正しい姿勢が保てる机や椅子など各種の補助ツールを適切かつ効果的に活用できるように支援する。
- ・専門職(理学療法士、作業療法士)と連携し感覚統合療法に基づいた集団での感覚運動遊びを行う。感覚ニーズを満たし達成感を味わいながら感覚の統合を目指す。また、能動的な遊びの中で遊びの組み立てや他者との関わり方(空間把握、身体図式、力加減)の向上を図る。
- ・専門職が適切に評価を行い、感覚や認知の特性(感覚過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の提案及び支援を行う。



③認知・行動

- ・物の機能や属性、形や色、数などの概念の習得のため、子ども一人ひとりの発達段階に応じて具体的な対象物を用いた支援を行う。
- ・視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用し、認知機能の発達を促すための制作活動や感覚運動遊びを行う。
- ・イラストや写真、行動の見本を示すことで、情報を適切に処理し自ら理解して行動できるよう支援する。



④言語・コミュニケーション

- ・子どもの発達段階に応じて、言語だけでなく指さし、身振り、サイン、絵カード等、多様なコミュニケーション手段を活用し、自分の思いが他者に伝わった機会を積み重ねられるよう支援する。
- ・具体的な事物や体験を結びつけることにより体系的な言語の習得や自発的な発声を促すよう支援する。
- ・人との相互作用を通して共同注意の獲得を含めた、コミュニケーション能力の向上を図るための支援を行う。



本人支援

⑤人間関係・社会性

- ・人との関係を意識し、子どもが基本的な信頼関係を持つことができるように、環境や身近な人に対する安心感を基盤として安定した関係を築き、自分に対する信頼感も育めるよう支援する。
- ・自分の思いと違った時、感情が崩れた時、不安を感じた時などに助けを求めたり、相談したりすることで安心感を得たり自分の感情に折り合いをつけたりできるよう支援する。
- ・活動に安心して参加できるよう個々に応じた環境(人、物、空間)の調整を行い、集団活動への参加に達成感が得られるよう支援する。
- ・集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう、かかわり方の提案を行う。互いの存在を認め合いながら仲間づくりにつながるよう支援する。
- ・感覚遊びから、大人が介入しながら行う連合的な遊び、役割分担やルールを守って遊ぶ共同遊びへと個々に合った段階の遊びをスモールステップで進め、社会性を育む。



家族支援

- ・親子療育(運動遊び、食事指導)
- ・個人面談
- ・グループ懇談
- ・保護者研修(心理・言語・運動)
- ・ビデオ上映による療育の振り返り
- ・ペアレントメンター相談会



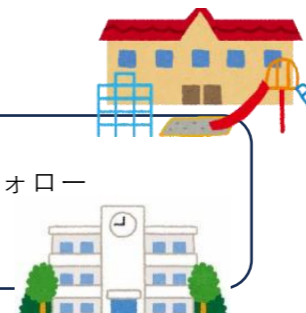
地域支援・地域連携

- ・地域資源を利用した買い物や外食体験
- ・幼稚園、保育園、地域の事業所、学校への施設支援
- ・サービス担当者会議への参加



移行支援

- ・入学、入園前後の引継ぎ フォロー
- ・他事業所利用児への引継ぎ



職員の質の向上

- ・外部講師を招いた研修会(感覚統合)
- ・医師、他の専門職(理学療法士、作業療法士、臨床心理士)と連携したカンファレンス
- ・虐待防止や身体拘束に関する研修会
- ・BCP・安全計画に則した研修会
- ・外部の研修会への積極的な参加

